

## 第4章 分野別のまちづくり方針

### 4-1 地域資源の継承と活用の方針

#### (1) 地域資源の現況と課題

##### ①多岐にわたる勝山市の地域資源

日本ジオパークの認定を受けた「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」の地形・地質、日本遺産「福井・勝山 石がたり」にも認定された平泉寺の中世の遺跡や元町・本町地区の旧勝山城下町、周辺の4県6市村とともに霊峰白山の自然や文化の価値を守り伝える活動・取り組みとして登録された「白山ユネスコエコパーク」、雄大に流れる九頭竜川など、勝山市には地域のアイデンティティとなっている地域資源が豊富にあり、周辺地域の環境と合わせて保全・継承していく必要があります。

##### ②地域資源を生かしたまちづくり

勝山市が有する固有の地域資源は、わがまちに対する市民の誇りや愛着の源となるとともに、観光や交流を促進する上での重要な要素となります。

これまで、都市再生整備計画事業（旧まちづくり交付金事業）による散策ルートや公園・広場の整備、情報板の設置、勝山駅前広場の整備等のほか、「歴史的まちなみ景観創出事業補助金」による平泉寺や本町通り周辺等での歴史的まちなみ景観の創出、「わがまち助成事業」による地域資源を生かした市民主体のまちづくり等を推進してきました。

こうした事業や制度を積極的に活用しながら、市民協働のまちづくりを活性化していく必要があります。

#### (2) 地域資源の継承と活用の方針

勝山市固有の地域資源を市民・事業者等との協働により保護・保全し、教育やツーリズム等に活用することで、ジオパークの理念に則った持続可能な地域資源の継承を図ります。

これにより、わがまちに対する市民の誇りや愛着心の醸成を図るとともに、地域活動の活性化や市内周遊の促進、関係人口の創出等に繋げ、将来にわたり活力のあるまちづくりを目指します。

また、先進地視察やまちづくりシンポジウムの開催などと合わせて、新たな担い手づくりや市民主体のまちづくりを進めます。

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内周遊の拠点としての恐竜渓谷かつやまエリア（道の駅「恐竜渓谷かつやま」周辺）への多種多様な機能導入</li> <li>・観光の産業化の推進（広域観光、インバウンド、滞在型観光、マイクロツーリズム、地域ブランディング、雪資源の活用、企業誘致、民間活力の導入等）</li> <li>・広域交流・連携の推進、関係人口の創出</li> <li>・先進地視察の受け入れ、まちづくりシンポジウムの開催 等</li> </ul>
------------	--



白山平泉寺旧境内



大矢谷の巨大岩塊



杉山の夫婦滝



ホワイトザウルスと恐竜博物館



旧木下家住宅



電気機関車テキ6 展示施設



九頭竜川の河岸段丘の地形



大清水



勝山左義長



年の市



岩屋の大杉

ジオパークを構成する地域資源の数々

## 4-2 土地利用の方針

### (1) 土地利用の現況と課題

#### ①自然環境・農業環境の維持と保全

勝山盆地を取り巻く森林は、一部が白山国立公園や奥越高原県立自然公園に指定されるなど優れた自然環境を有しており、水源涵養や土砂災害防止など多面的・公益的な機能を有する森林資源の適正管理が必要です。

市内を貫流する九頭竜川は、豊かな水と良好な水辺環境を有し、河川敷の弁天桜とともに勝山のシンボルとして維持保全に努める必要があります。

盆地に広がる田園地帯は、高齢化の進行や後継者不足、農業経営の不透明感等の問題に対処しつつ、勝山市の基盤産業として、また、集落環境や景観を維持するために保全に努めていく必要があります。

#### ②自然リゾートエリアや歴史資源の保全と活用

西日本最大級の規模を誇るスキージャム勝山を中心とするエリアは、自然環境の保全・調和に配慮しながら、通年型のリゾートエリアとしての活用を推進することが必要です。

中世の遺跡を広範囲に残す国史跡白山平泉寺旧境内は、白山の歴史・自然・文化を生かした学習や交流、地域づくりの場として活用していくことが必要です。

長尾山総合公園（かつやま恐竜の森）は、福井県立恐竜博物館の機能強化に加え、Park-PFI 制度を活用した再整備を行い、滞在型観光の推進や観光需要の底上げを図ることが必要です。

#### ③土地利用の適切な規制・誘導

勝山市では、用途地域外における無秩序な開発の抑制や良好な眺望景観を保全するため、特定用途制限地域の指定を行っており、引き続き適正に運用していくことが必要です。

恐竜渓谷かつやまエリア（道の駅「恐竜渓谷かつやま」周辺）においては、市内周遊や滞在型観光を促進するための基盤整備と合わせて、適切な機能導入や良好な景観誘導に向けたルールづくりが必要です。

用途地域内で長期にわたり農地等として利用されている低未利用地については、勝山市立地適正化計画との整合性や将来の宅地需要等を勘案しながら、土地利用誘導に向けた基盤整備のあり方や土地利用規制のあり方を検討することが求められています。

また、国では、近年の激甚化する自然災害に対応するため、災害リスクの高いエリアにおける開発を厳しく制限しており、勝山市においても市民の安全安心を守るため、開発を適正にコントロールしていくことが必要です。

#### ④コンパクトな市街地空間の有効利用

勝山市では、元町・本町一帯の中心市街地を中心に、社会基盤や公共施設の整備、魅力アップに向けた景観整備等を進めており、これらを適切に維持管理するとともに、勝山市立地適正化計画と連携しながら、都市機能の立地や居住を適正に誘導していくことが必要です。

防災減災や雪対策の強化のほか、市民の生活スタイルの変化等に対応するため、空き家や空き地、道路や公園等の市街地内の公共空間を有効に活用していくことが必要です。

## (2) 土地利用に関する基本的な方針

### ①勝山市の魅力を高めるための総合的な土地利用の調整

市域の約93%を占める田園・森林地域は、自然豊かで美しい勝山市を象徴し、まちの住み心地に対する評価要素になっており、無秩序な開発を抑制するとともに、災害リスクの高いエリアでの開発規制など、関係部署と連携して総合的な土地利用の調整を図ります。

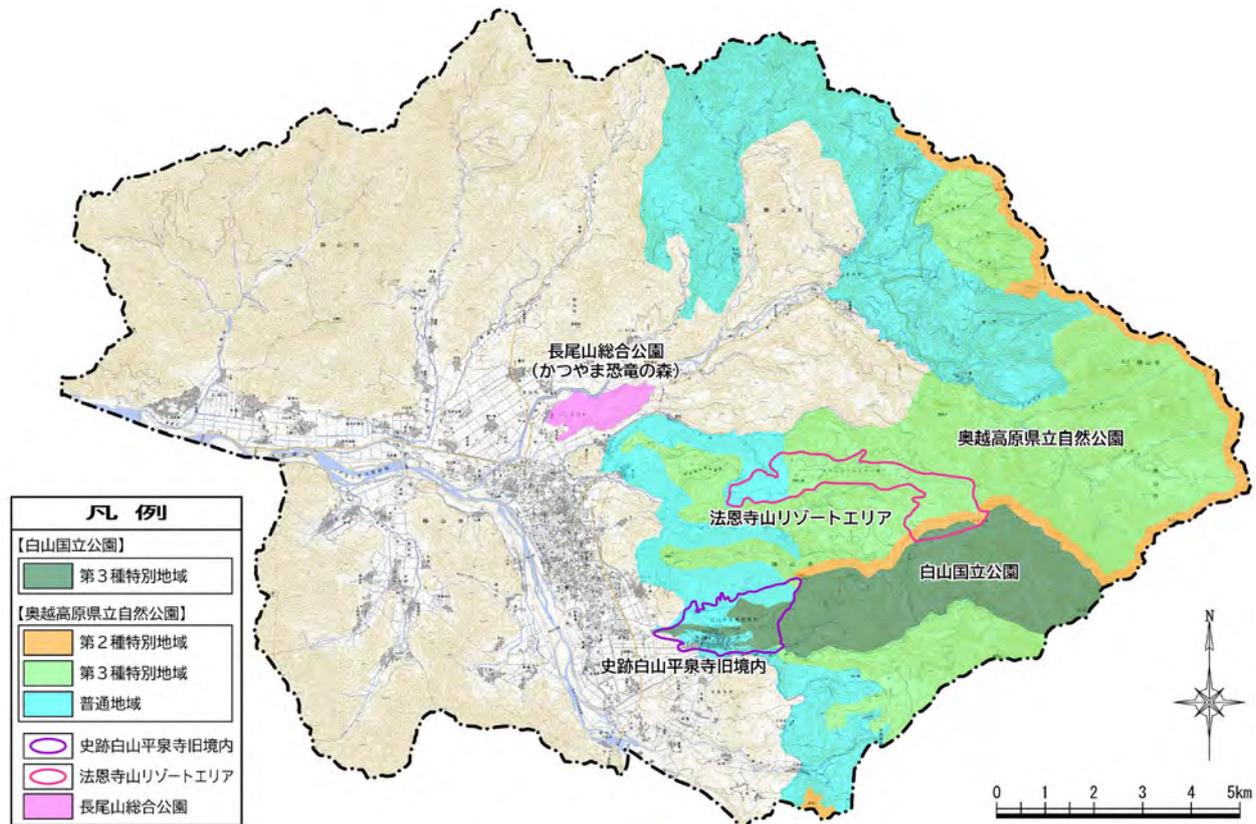


図4-1 自然・歴史資源の保全に係る法規制等の状況

### ②人にやさしく歩いて暮らせる機能集約型のまちの形成

勝山市立地適正化計画と連携して、商業・医療・福祉などの生活に必要な機能や宅地開発を適正に誘導し、今まで以上にコンパクトなまちづくりを進めます。

これにより、行政サービスの効率化や生活サービス機能の維持が図られるとともに、高齢者等の移動制約者や子育て世代などが車に過度に依存しなくても歩いて暮らせる、人にやさしいまちの形成を目指します。

### ③多様なライフスタイルに対応した住み続けられる地域づくり

元町・本町一帯の中心市街地及びその周辺では、都市機能や生活サービス機能の集約化のメリットを生かしながら、農地や空き家・空き地等の低未利用地の有効活用、日本遺産の旧勝山城下町や、はたや記念館ゆめおーれ勝山、花月楼などの地域資源の活用、中央公園の再整備などにより、賑わいがあり、便利に暮らせる地域づくりを進めます。

農山村地域では、豊かな自然環境や美しい自然景観と共存し、地域独自の生活文化を継承する地域づくりを目指して、交通ネットワークの強化や身近な生活空間の再整備、コミュニティ機能の強化等を進めます。

### (3) エリア別の土地利用の方針

地形条件や自然条件を基に、大きく『市街地ゾーン』、『田園・集落ゾーン』、『山岳緑地ゾーン』に分類し、それぞれの地域特性を生かした持続可能なまちづくりを推進するため、適正な規制・誘導を図ります。

#### ①市街地ゾーン

コンパクトに形成されている現在の用途地域指定区域を市街地ゾーンに位置付け、居住や商業・産業活動などの機能に応じて、まとまりのある土地利用の形成を図ります。

道路、公園、上下水道などの都市基盤施設の計画的な整備及び維持管理・更新を進めるとともに、安全で快適な居住環境の整備、活力や賑わい・交流などを創出するための多様な都市機能の誘導を図ります。



サンプラザ周辺から市街地への空撮

#### ■住宅地（専用住宅地、一般住宅地）

子どもから高齢者までが安全・安心で快適に住み続けることのできる居住空間の形成を図るとともに、多様な人々が集まって暮らすことで豊かなコミュニティの形成を目指します。

既存の専用住宅地においては、日常生活に最低限必要な小規模店舗などの立地を許容しながら、特に良好な居住環境の保全・創出及び居住誘導を図ります。

その他の住宅地では、移動に伴う環境負荷の軽減や就業環境の変化への対応等を図る上でも、地域に密着した商業サービスや事務所・工場など、居住環境に悪影響を与えることのない機能と共存できる職住近接の居住の場の創出を図ります。



ゆとりが感じられる特徴的な住宅地

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路、公園、上下水道などの身近な都市基盤や公営住宅の整備・維持管理・更新</li> <li>・空き家の利活用、老朽空き家の除却等</li> <li>・低未利用地の宅地化の促進</li> <li>・定住の促進（U・Iターン、お試し居住、サテライトオフィス、ワーケーション）</li> <li>・福井県立大学恐竜学部（仮称）開設に伴い、学生アパートの誘致などの住環境整備や空き家を活用したサテライト施設の確保の検討 等</li> </ul>
------------	--

#### ■中心市街地

中心市街地に位置付けられる元町・本町及びその周辺、勝山駅周辺は、市民の生活利便性を高めるため、都市機能や生活サービス機能の導入を図るとともに、道路・公園・河川等の社会基盤の適切な維持管理・更新を図ります。

また、はたや記念館ゆめおーれ勝山、花月楼を拠点として、日本遺産も活用した周遊や滞在性の向上に向けて、市民、事業者、関係団体、行政が協働で取り組みます。



花月楼

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中央公園や元緑線の再整備、周辺施設との連携を含めて、市民が集う、賑わいのある中心市街地の形成</li> <li>・ 本町通り周辺における重点的な景観の保全</li> <li>・ 歩行者空間の維持管理、案内サイン等の整備</li> <li>・ 商工部署との連携による魅力ある商店街の再生、滞在型観光、マイクロツーリズム、地域ブランディングの推進</li> <li>・ 空き家、空き店舗、空き地の利活用</li> <li>・ 広場等のオープンスペースの配置、狭小道路の改良</li> <li>・ 雪対策（消雪施設・流雪溝の維持管理・更新、空き地の堆雪場利用） 等</li> </ul>
------------	---

### ■近隣商業地

中心市街地の周辺及び市街地内の主要な生活道路の沿道地域を近隣商業地に位置付け、中心市街地を補完し、近隣住民の生活に密着した商業地の形成を図ります。



住民の身近な生活を支える商店街

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勝山市立地適正化計画に基づく都市機能の立地誘導</li> </ul>
------------	---

### ■恐竜渓谷かつやまエリア（道の駅「恐竜渓谷かつやま」周辺）

広域的な玄関口である中部縦貫自動車道勝山 IC から、市内への導入部に位置する松ヶ崎・新保地区では、道の駅「恐竜渓谷かつやま」を補完する機能の導入により、市内への周遊を促す交流拠点としての適切な土地利用を展開するとともに、まちの新たな玄関口にふさわしい景観形成を図ります。



道の駅「恐竜渓谷かつやま」

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道の駅を補完する飲食や宿泊機能等の誘致</li> <li>・ 特別用途地区や地区計画制度を活用した適正な土地利用や景観の誘導 等</li> </ul>
------------	--

### ■工業集積地

勝山市の主力産業である繊維産業を中心とする既存の工業用地及び工業集積地では、周辺環境との調和や景観に配慮しながら、生産性の高い工業地を配置します。

都市基盤の整備と合わせて低未利用地の有効活用を図るとともに、若者の流出防止やU・Iターンの推進に向けた就業の場の提供を図るため、関係部署と協議しながら新たな産業用地の確保に向けた土地利用の転換を検討します。

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道路等の整備による工業基盤の整備</li> <li>・ 地域ブランディングと合わせた企業誘致の推進</li> <li>・ 勝山市企業振興助成金制度の活用</li> <li>・ 勝山市公害防止条例等に基づく周辺環境への配慮 等</li> </ul>
------------	--

### ■一般工業地

中小企業が多い勝山市では、主要な生活道路の沿道等において住宅と小規模工場の混在が見られ、引き続き住宅と工場などの共存を図り、職住隣接の市街地環境を維持します。

取組方策 の例	・特別用途地区による適正な土地利用の誘導
------------	----------------------

### ■大規模な集客施設等の適正立地

郊外展開型都市開発の抑制や幹線道路沿いの眺望景観の保全等を図るため、特別用途地区及び特定用途制限地域の指定を継続し、市街地への適正な立地誘導を図ります。

取組方策 の例	・特別用途地区の適正運用 ・特定用途制限地域の適正運用
------------	--------------------------------



国道 416 号からのパノラマ景観

## ②田園・集落ゾーン

市街地を取り囲む農地は、農業部署と連携して担い手の育成を図りながら、良好な田園環境や美しい眺望景観を保全します。

集落地域では、身近な都市基盤の整備・維持管理や雪対策の強化を図るとともに、まちづくり会館等の機能充実による地域コミュニティの維持・活性化、市街地ゾーンとの交通ネットワークの強化等により、地域での暮らしやすさを高めます。



野向の農村風景（コスモス畑）

また、国史跡白山平泉寺旧境内の集落においては、歴史遺産と石畳や石垣のある昔ながらの面影が感じられる集落景観の保全を図ります。

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり会館化のコミュニティセンター化</li> <li>・身近な都市基盤の整備・維持管理</li> <li>・公共交通ネットワークの強化</li> <li>・移動販売等による生活サービス機能の充実</li> <li>・農業体験等のまちづくりと連携した農業の継続</li> <li>・AI・ICT 技術を活用した農業の効率化</li> <li>・U・I ターン、お試し居住、サテライトオフィス、ワーケーション 等</li> </ul>
------------	--

## ③山岳緑地ゾーン

生物多様性、地球環境保全、土砂災害防止、保健休養、レクリエーション、快適環境形成、文化機能など多面的機能を有する加越国境や越前中央山地の山々は、関係部署と連携し、林業の活性化と合わせて森林資源を保全・育成するとともに、法恩寺山リゾートを核として雄大な自然を生かしたレクリエーション活動を推進します。



スキージャンプ勝山

また、深い山々に囲まれた北谷地区では、森林資源を生かした生活体験や林業体験、レクリエーション活動等の地域主体のまちづくり活動を支援し、人口減少・高齢化地域におけるまちづくりのモデルとして、持続可能性のあり方を検討していきます。



ミチノクフクジュソウ観察会の様子

<p>取組方策 の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林資源の保全、林業の活性化</li> <li>・災害リスクの高いエリアでの開発規制</li> <li>・自然を生かしたレクリエーション活動や散策路の充実</li> <li>・森林資源を生かした地域主体のまちづくり活動の支援 等</li> </ul>
--------------------	---

#### (4) 土地利用の適正化に関する方針

用途地域を中心とする土地利用の規制誘導策については、都市計画基礎調査等を活用し、まとまりのある低未利用地の抽出や土地利用の動向と土地利用制限との乖離状況等を分析するとともに、根幹的な都市施設の立地や市街地開発等のプロジェクトに対応した将来都市構造の見直しと合わせて、適時適切な見直しを行います。

この際、周辺地域への影響に十分に配慮するとともに、必要に応じて特別用途地区や地区計画制度等を活用し、目指すべき土地利用の適切な形成を図ります。



凡 例		
<b>まちを構成するゾーン</b>	<b>まちの主要な拠点</b>	<b>まちの主要な軸</b>
市街地ゾーン	中心市街地	中部縦貫自動車道・IC
田園・集落ゾーン	恐竜渓谷かつやまエリア (道の駅「恐竜渓谷かつやま」周辺)	広域幹線道路
山岳緑地ゾーン	工業集積地	都市内幹線道路
	骨格的な公園・緑地	その他の主要道路
	白山平泉寺旧境内地区	えちぜん鉄道・駅
	リゾート・レクリエーション拠点	主要な河川
	地域コミュニティ拠点	

図 4-2 勝山市全体の土地利用方針図

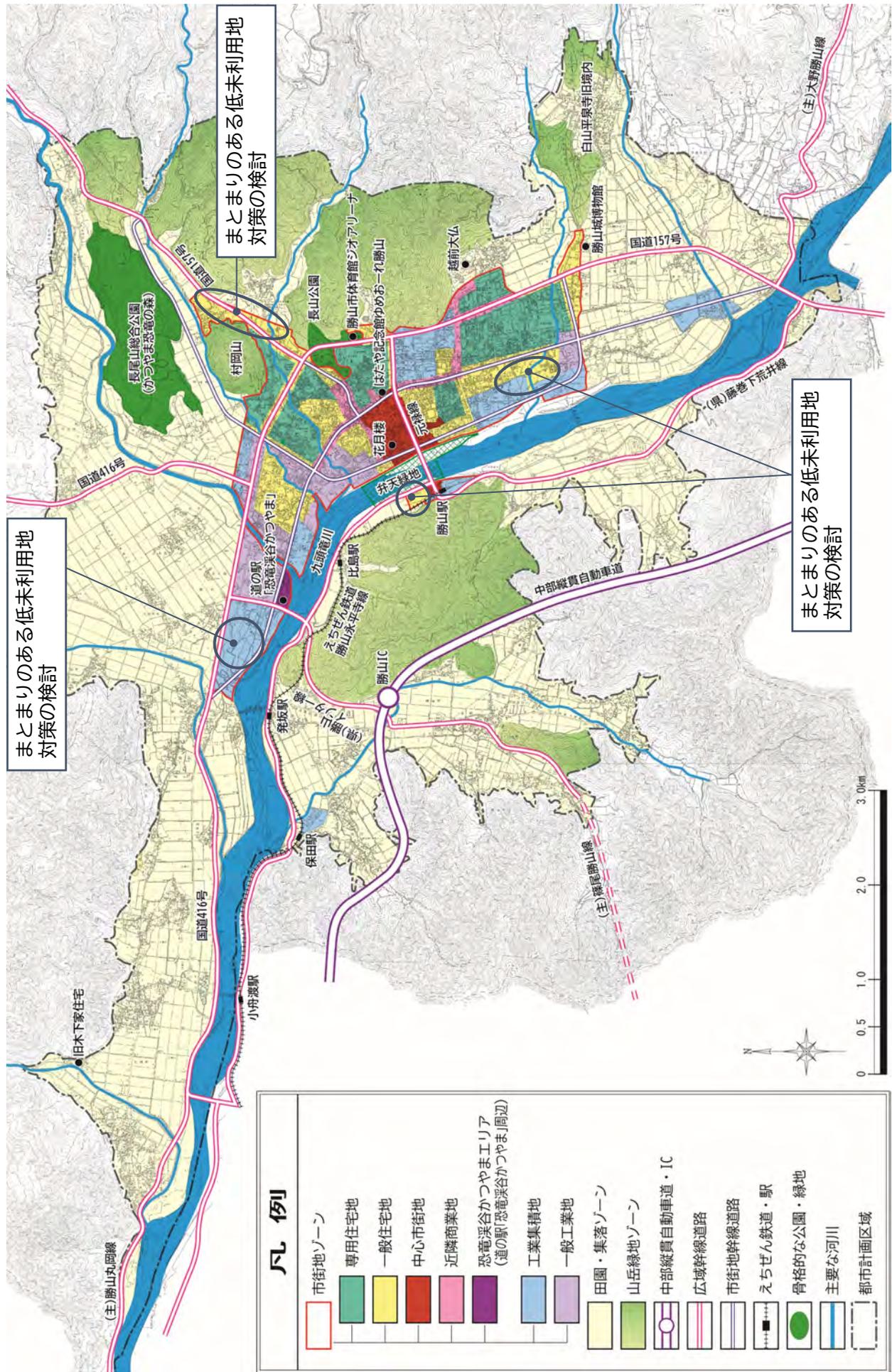


図 4-3 市街地及びその周辺の土地利用方針図

## 4-3 交通体系整備の方針

### (1) 交通体系の現況と課題

#### ①広域的な交通ネットワークの強化

中部縦貫自動車道は、大野 IC までの開通により通勤や観光面で利便性が高まっています。令和 8 年（2026 年）春には大野油坂道路が完成し県内全線が開通する見通しであり、安定した交通の確保、地域・観光資源を生かした地域経済の活性化、医療活動の支援を図るため、今後も着実な工事の進捗が求められます。

国道 416 号については、平成 30 年（2018 年）に小松市との県境区間が開通し、一部残る狭小区間の改修が県にて行われており、更なる石川県との交流の活性化が期待されています。

大野市方面を繋ぐ国道 157 号については、産業や観光振興を支える重要な路線として、大渡～大野市南新在家区間の 4 車線化の早期実現に向けた要望書を県に提出しています。

#### ②市街地部の幹線道路ネットワークの確立

市街地では土地区画整理事業等により幹線道路の整備が進みましたが、市街地を縦貫する都市計画道路縦貫線（主要地方道勝山丸岡線）等は未完了となっています。

勝山駅と中心市街地を結ぶ都市計画道路元禄線については、大蓮寺川の河川改修事業と合わせた再整備・景観整備を計画しています。

#### ③生活道路の改善

土地区画整理事業による基盤整備が完了した地区以外の既存市街地や集落地域では狭小な道路も多く、防災面の強化や住環境の改善を図るため、生活道路の改善が必要です。

#### ④道路の防災性強化と魅力向上

道路は、市民の日常生活や産業、観光、交流等を支える最も根幹的な社会基盤であるとともに、災害時には避難経路や物資輸送路等として重要な役割を果たすことから、適切な維持管理・補修等により道路の防災性を高めることが必要です。

勝山市においては、冬期における積雪が市民の日常生活や産業活動等に大きな影響を与えていることから、除排雪体制の強化を図ることが必要です。

また、子どもから高齢者までが安心して歩けるよう、歩行者空間の整備・充実を図るとともに、道路景観の向上やオープンスペースとしての道路空間の利用など、道路の魅力向上を図ることが必要です。

#### ⑤公共交通機関の確保と充実

えちぜん鉄道等の公共交通機関は、市民の生活交通や観光・交流を支えるほか、環境負荷の低減などの重要な役割を担っており、各事業者と連携して利便性の向上を図ることが必要です。

#### ⑥長期未着手の都市計画道路への対応

長期未着手の都市計画道路（旭立川線の一部区間）については、周辺の道路事情や交通量、土地利用の動向等を勘案しつつ、都市計画の見直しも含めた方向性の検討が必要です。

## (2) 交通体系整備に関する基本的な方針

### ① 地域資源のネットワークづくり

勝山市内に広く分布する観光地や地域資源への周遊性を高めるため、道路網や公共交通網によるネットワークの強化を図ります。

これらの路線においては、屋外広告物の適正な規制・誘導、多言語化や景観に配慮した案内サインの設置、まちなみの統一等により、良好な道路景観の創出を図ります。

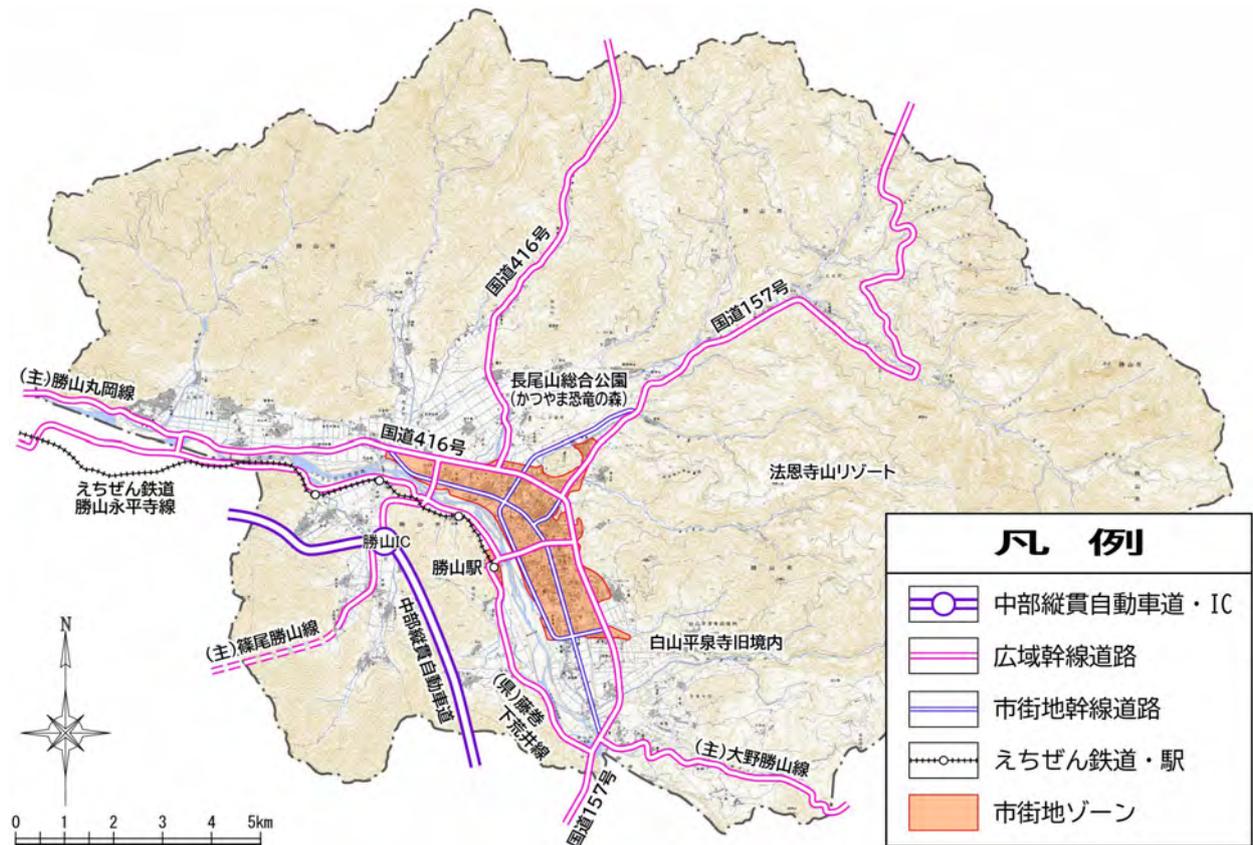


図 4-4 勝山市全体の道路ネットワーク方針図

### ② 広域的な交流や連携を支える道づくり

周辺都市との広域的な交流や連携を支えるため、中部縦貫自動車道の県内全線開通の実現、国道 157 号の大野市までの 4 車線化の促進を要望します。

### ③ 風格のある道づくり

勝山市への導入路となる国道 416 号や国道 157 号、県道勝山インター線は、無秩序な沿道開発の抑制や眺望景観への配慮により、自然豊かで美しい勝山市の印象を高めます。

勝山駅と中心市街地を結ぶ都市計画道路元禄線は、歩道のバリアフリー化や高質化等を推進するとともに、ほこみち（歩行者利便増進道路）制度を活用した賑わい創出など、広幅員の道路空間の有効利用を図ります。

本町通り、後町通り、河原町通り等においては、都市再生整備計画事業により整備された歴史的な趣のある道路景観を維持します。

#### ④人にやさしく生活を支える安全な交通環境づくり

幹線道路に位置付けられる道路網は、各路線の役割等に応じた整備や機能充実、防災性の向上、適切な維持管理・更新や長寿命化を図るとともに、市民生活を支える身近な生活道路については、地域ニーズに対応して舗装の修繕や狭小道路の改善などを進めます。

歩行者・自転車空間については、バリアフリー化や歩行者と自転車の分離、消雪施設の適切な維持管理・更新などにより、安全・安心に利用できる道づくりを進めます。

冬期の積雪時における円滑な除排雪体制を整備するとともに、財政の悪化や人材不足等に対応して道路情報の迅速な収集・共有や作業の効率化等を図るため、ICT技術やSNS等を活用した維持管理体制を検討します。

公共交通網については、勝山市地域公共交通計画に基づき各事業者と連携して鉄道を含む公共交通機関の利用を促進します。特にコミュニティバスについては、サービス内容の見直し、利用環境の向上、分かりやすい運行情報の提供とともに、市民が主体となって地域内を効率的に移動する新しい交通手段を構築するなど、市民の日常生活を支える利用しやすい公共交通網の実現を目指します。

### (3) 交通体系整備の方針

#### ①自動車交通ネットワークの配置・整備方針

##### ■広域幹線道路

環白山地域を結ぶ中部縦貫自動車道を中心に、周辺都市との移動や交流・連携を支える広域幹線道路網を形成し、勝山市の骨格的な道路として良好な沿道景観の形成を図ります。

- ①中部縦貫自動車道：国や県、関係市町と連携して県内全線開通を促進
- ②(県)勝山インター線、(都)新保線：適切な維持管理
- ③国道 416 号：野向町横倉集落付近の拡幅改良を要望
- ④国道 157 号：未完了区間((都)北谷線)の整備を促進、  
大野市との産業・観光振興を支える重要な交通基盤として 4 車線化整備を要望
- ⑤(主)勝山丸岡線：恐竜溪谷かつやまエリア（道の駅「恐竜溪谷かつやま」周辺）の拡幅整備を要望
- ⑥(主)大野勝山線：適切な維持管理
- ⑦(主)篠尾勝山線：鹿谷町本郷集落付近の歩道整備、福井市美山町皿谷を結ぶ交通不能区間の解消を要望
- ⑧(県)藤巻下荒井線：遅羽町比島～鹿谷町保田間の歩道整備を要望
- ⑨(都)元禄線：大蓮寺川の河川改修事業と合わせた歩道の高質化や景観整備を推進

(※1) (都)は都市計画道路、(主)は主要地方道、(県)は一般県道 の略

(※2) 数字は方針図の番号に対応

##### ■市街地幹線道路

広域幹線道路を補完して主に市街地の骨格を形成し、市民の日常的な移動や来訪者の周遊を支える幹線道路網の形成を図ります。

- ⑩(都)縦貫線：市街地の中央を縦貫する路線で、全区間が未完了となっており、整備率を向上
- ⑪(都)西環状線：市街地を循環して長尾山総合公園（かつやま恐竜の森）にアクセスする路線で、未完了区間の整備を促進
- ⑫(都)北谷線：中心市街地から長山公園や長尾山総合公園（かつやま恐竜の森）にアクセスする路線で、未完了区間の整備を促進

##### ■補助幹線道路

市街地部を中心に、広域幹線道路や市街地幹線道路を相互に結び付けるとともに、身近な生活交通を処理するための補助幹線道路を配置します。

- (都)旭立川線：(都)縦貫線と(都)西環状線を結ぶ未整備区間について、周辺の土地利用計画と合わせて整備のあり方を検討
- (都)立石線、(都)滝波線、(都)布市線、(都)旭猪野線、(都)元町線、(都)本丸線、(都)片瀬線  
：適切な維持管理

■生活道路の整備

市民生活に密着した生活道路については、地域特性に応じた改善を図ります。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭小道路の改善（拡幅整備、空き地を利用したすれ違いスペースの確保等）</li> <li>・円滑な除雪体制づくり 等</li> </ul>
--

②歩行者・自転車ネットワークの配置・整備方針

■全市的な歩行者・自転車ネットワークの形成

交通量の多い幹線道路や通学路などを中心に、歩行者・自転車の通行空間のネットワークを形成し、安全性と快適性を確保します。

また、九頭竜川河川敷を利用した散策・レクリエーション動線として、水辺や弁天桜の景観を楽しめる散策空間の形成を図ります。



九頭竜川沿いの弁天桜

<p>取組方策 の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道の整備、バリアフリー化</li> <li>・自転車走行空間の確保（歩行者と自転車の分離）</li> <li>・交通安全施設の充実</li> <li>・弁天緑地の活用、堤防を利用した散策路の維持管理 等</li> </ul>
--------------------	---

■歩いて暮らせる、楽しみながら歩ける歩行者空間の整備

市街地を中心に、車に過度に依存しなくても歩いて暮らせるまちを形成するため、歩行者空間の充実を図ります。

特に中心市街地では、修景整備された本町通りや後町通り、河原町通り等を中心に周遊性を高めるとともに、都市計画道路元禄線については、広い歩道幅員を生かした賑わいや交流空間としての活用を検討します。

白山禅定道の周辺（国史跡白山平泉寺旧境内）では、文化庁の「歴史の道百選」や「日本遺産（福井・勝山 石がたり）」に選ばれた歴史的な雰囲気を楽しみながら歩ける個性的な道づくりを推進します。



後町通り



シンボルロードに位置付けられる元禄線

<p>取組方策 の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路空間、消雪施設の適切な維持管理・補修</li> <li>・散策ルートの設定、沿道の修景、誘導サインの設置、休憩スペースの整備</li> <li>・ほこみち（歩行者利便増進道路）制度の活用 等</li> </ul>
--------------------	--

③公共交通網の配置・整備方針

■えちぜん鉄道の利用促進

高齢者や通勤・通学者に対する移動性の確保、ゼロカーボンシティの実現を目指すとともに、北陸新幹線福井・敦賀開業に伴う広域的な人の流れを市内に引き込むため、鉄道事業者と連携してえちぜん鉄道の利用を促進します。

また、国の登録有形文化財であり大正ロマンの趣が漂う駅空間を活用し、交通結節機能の強化を図ります。



まちの玄関口となる勝山駅

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種公共交通機関との乗り継ぎ利便性の向上</li> <li>・待合機能、情報発信・交流機能の充実</li> <li>・鉄道利用に対する支援・補助制度 等</li> </ul>
------------	---

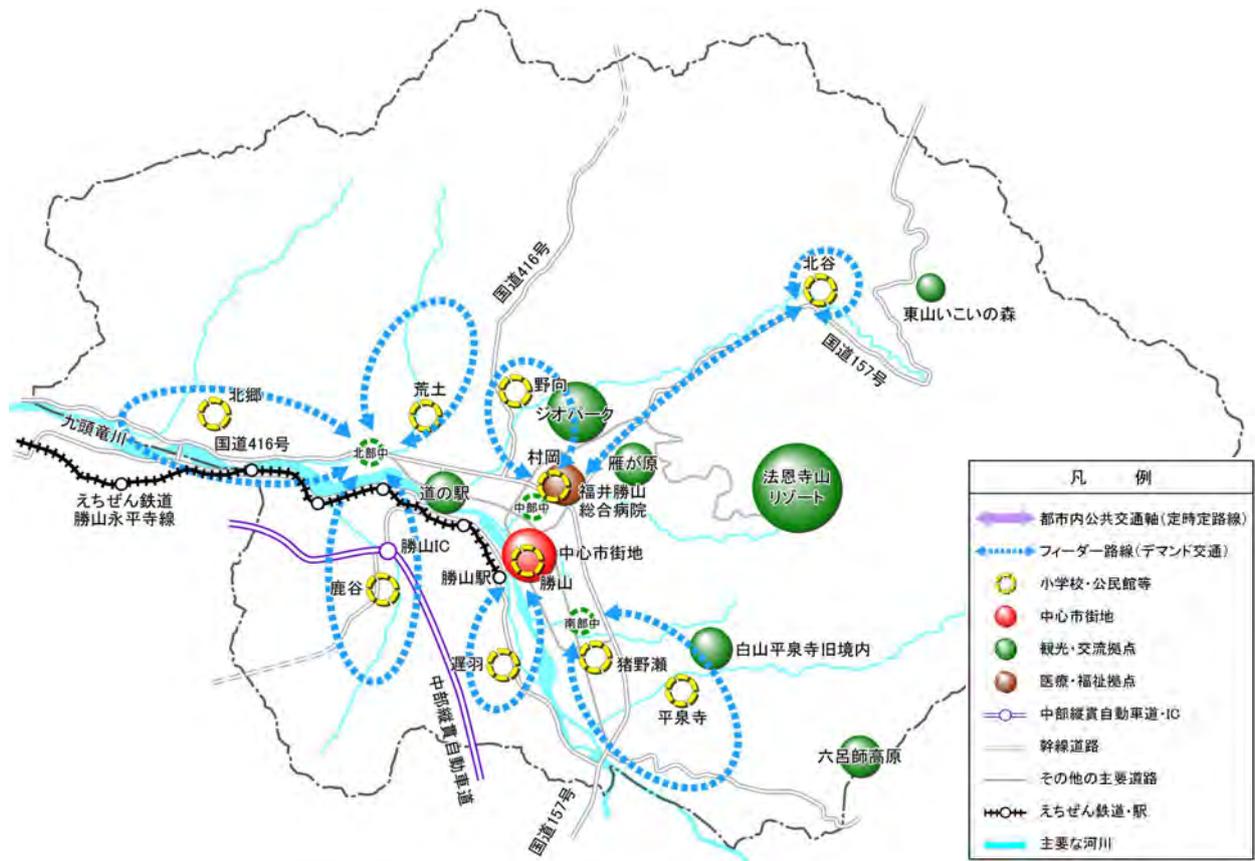
■公共交通の利用促進

路線バスは、高校生の主な通学手段として、また、市内主要施設と大野市内の越前大野駅や大規模商業施設を連絡する広域的な公共交通ネットワークとして、運行を継続します。

コミュニティバスについては、運行形式や経路などを見直すことにより、高齢者や通学者などの日常の移動の利便性を確保するとともに、交通基盤の維持・効率化を目指します。

また、中学校の再編、中高併設・連携に合わせて、安全な通学に向けた公共交通体系を構築します。

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスの再編に向けたデマンド交通の実証実験</li> <li>・産官学の連携によるバスロケーションシステムの導入</li> <li>・タクシー運行サービスの継続</li> <li>・バス利用に対する支援・補助制度</li> <li>・勝山市地域公共交通計画に基づく公共交通体系の見直しの丁寧な説明 等</li> </ul>
------------	--



(利用者の多い朝・夕の時間帯のイメージ)



(利用者の少ない日中の時間帯のイメージ)

図 4-5 公共交通ネットワークのイメージ図 (出典：勝山市地域公共交通計画)



## 4-4 公園・緑地整備の方針

### (1) 公園緑地の現況と課題

#### ①長尾山総合公園（かつやま恐竜の森）の整備

福井県立恐竜博物館を有する長尾山総合公園（かつやま恐竜の森）は、勝山市だけでなく福井県を代表するレクリエーション拠点となっています。

全体計画面積 135.9ha のうち第 1 期事業により 79.6ha を供用していますが、ポストコロナも見据え、長尾山総合公園（かつやま恐竜の森）が有する多様なポテンシャルをさらに発揮させることで、勝山市の観光の中心地として、また、市民にとっても公園で過ごす時間がより魅力的なものになるよう機能強化が必要です。

#### ②既成市街地における公園緑地の配置

土地区画整理事業により面的整備が行われた区域では公園が適正に配置されています。その他の既成市街地などでは、子育て世代等の暮らしやすさや防災性を高めるために、地元の協力を得ながら、民有地の活用も含めた公園緑地の適正な確保が必要です。

#### ③水と緑のネットワークの確保

勝山市の市街地は、雄大に流れる九頭竜川に沿って形成され、多くの中小河川や水路が市街地内を潤して九頭竜川に注いでおり、浸水等の災害対策を強化しつつ、恵まれた環境を水と緑のネットワークづくりに生かすことが必要です。

#### ④公園施設の老朽化と維持管理

現在供用されている公園は、昭和 50 年代の土地区画整理事業により整備された公園が多く、遊具等の公園施設が老朽化しているとともに、ユニバーサルデザインなど現代のニーズに適していないもの、また、適切に維持管理されていないものも見られ、適切な維持管理・更新が必要です。

### (2) 公園・緑地整備に関する基本的な方針

#### ①勝山市を取り巻く自然の緑の保全・継承

勝山市の緑は、霊峰白山につながる加越国境の山々、盆地に広がる田園空間、雄大に流れる九頭竜川等の自然によって骨格が形成されており、無秩序な開発の抑制等により保全するとともに、市民・各種団体や事業者等と連携・協力しながら適切に管理し、継承していきます。

また、これらの自然をうまく取り込みながら、地域の特色を生かした公園緑地の整備や機能強化を図ります。



勝山高校からの空撮



レクリエーションの場でもある九頭竜川

## ②地域のニーズに対応した公園緑地等の確保と再整備

都市公園をはじめとする緑は、良好な都市環境の提供、まちの安全性の向上、市民の活動や憩いの場の提供、豊かな地域づくりなどの多様な役割を有しており、既存の公園緑地の再整備や充実を図るとともに、それぞれの地域が抱える課題やニーズ等に対応しながら公園緑地やオープンスペースの適切な配置を検討します。

## ③公園施設の長寿命化と適切な維持管理体制づくり

予防保全の考えに基づき、定期的な点検を実施して公園施設の長寿命化を図っていくとともに、老朽化が進みつつある公園施設については公園施設長寿命化計画に基づいて施設の修繕等を確実にかつ適切に進め、安全で利用しやすい公園づくりを目指します。

施設状態の監視や清掃活動などにおいては、市民との連携も図りながら効率的な維持管理に努めます。また、公園の管理業務については、指定管理者制度等を活用した民間との連携や、地元自治会への管理委託等により、コストの縮減や市民サービスの向上を図ります。



管理が不十分な都市公園

## ④水と緑のネットワークの形成

美しい自然に包まれた水と緑の豊かな勝山市の質をさらに高めるため、道路空間や河川・水路等を利用して公園緑地や公共施設・観光拠点相互を水と緑のネットワークでつなぎ、周遊性や滞在性の向上を図ります。



市街地内の水辺空間

## ⑤市民とともに身近な花と緑をつくり育てる

まちの魅力や暮らしやすさを高めるとともに、わがまちに対する誇りや愛着心の醸成を図るため、市民や事業者等の緑化活動に対する意識づくりや助成制度の活用等により、市民とともに身近な花と緑をつくり育てます。

# (3) 公園・緑地整備の方針

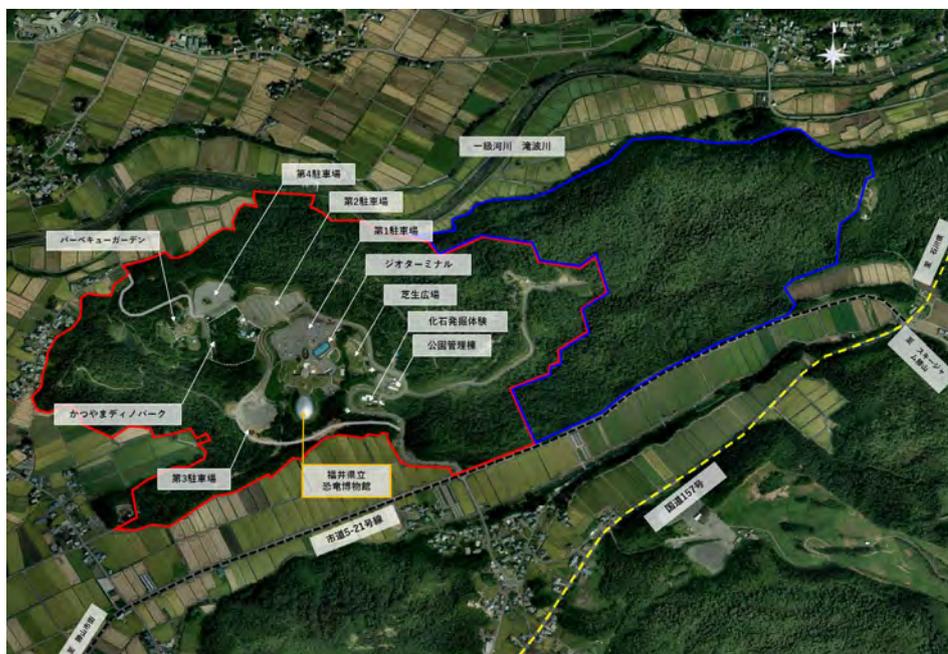
## ①都市公園等の整備

### ■長尾山総合公園（かつやま恐竜の森）

現在供用中の1期エリアを中心に、民間活力を活用した再整備と管理運営を進め、魅力向上事業により公園の活用を促進し、通過型観光から滞在型観光へのシフトを図るとともに、恐竜と研究・教育との連携強化を図ります。また、これらによる来訪者の増大に対応するため、渋滞対策や避難経路の整備等を推進します。

1期エリア内で2期エリアに隣接する未活用箇所については、将来の2期エリアの整備を見据えた整備を展開します。

<p>取組方策 の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Park-PFI（公募設置管理制度）による公園の再整備と管理運営の一元化</li> <li>・ 福井県立大学恐竜学部(仮称)の開設（福井県）</li> <li>・ 大学建設に伴う公園の都市計画変更（公園区域の削除・追加）</li> <li>・ 年間を通じたイベントの開催</li> <li>・ 新たなアクセス道路の整備 等</li> </ul>
--------------------	---



長尾山総合公園  
(かつやま恐竜の森)  
現在の施設配置図

### ■長山公園

ナイター設備を有するグラウンドが整備され、桜の名所でもある長山公園は、勝山市体育館ジオアリーナとも連携し、市民のスポーツ活動や憩いの場としての活用促進を図ります。

また、中学校の再編、中高併設・連携に合わせて、施設間の連携を図ります。



勝山市体育館ジオアリーナ

### ■中央公園

中心市街地に位置する中央公園は、避難場所としての防災機能の強化とともに、子どもの遊び場を確保するための再整備を行い、周辺施設との連携も含めて、市民が集う、賑わいのあるエリアの形成を図ります。



芝生を敷設した公園の例(他市)

<p>取組方策 の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明るい公園にするための塀・樹木等の撤去</li> <li>・ 芝生の敷設</li> <li>・ トイレ改築、駐車場・新たな遊具整備 等</li> </ul>
--------------------	---

■河川緑地

九頭竜川河川敷を利用した弁天緑地は、市民のレクリエーションやスポーツ活動の場であるとともに、右岸に1.5kmにわたって桜並木が続く桜の名所でもあり、市民が誇れる場所として環境維持と活用を図ります。

このほか、地域の実情に応じて水辺空間を生かした緑地の配置を検討します。



レクリエーション活動が盛んな弁天緑地

■その他の公園緑地、広場等

市街地では、既存公園の適切な機能更新や長寿命化を図るとともに、徒歩による利用圏等を考慮して都市公園の適正配置に努めます。特に、建物が密集する元町・本町一帯などでは、地元の協力を得ながら身近な公園緑地やオープンスペースの確保に努め、防災性や居住環境の向上を図ります。

集落地域においても、地域ニーズに対応しながら、地域住民の身近な憩いやコミュニティづくりの場となる広場空間の確保に努めます。



中心市街地内の小公園

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存公園施設の長寿命化、機能更新、再整備</li> <li>・老朽空き家の解体、空き地等を利用した広場空間の整備</li> <li>・災害時における公園の多用途な利用 等</li> </ul>
------------	--

②協働による質の高い緑化の推進

恵まれた自然環境と調和し、花や緑で彩られ、心安らぐ質の高いまちを形成するため、市民、事業者、行政の協働により、積極的な緑化や適切な維持管理活動に取り組みます。



ホワイトザウルス環境整備活動の様子

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花いっぱい運動等による身近な緑化活動の推進</li> <li>・幹線道路等での植栽やプランターの設置</li> <li>・観光拠点などの公共施設におけるシンボリックな緑化</li> <li>・景観計画や地区計画、工場立地法等に基づく敷地内緑化の推進</li> <li>・地域による公園緑地や街路樹の維持管理 等</li> </ul>
------------	--

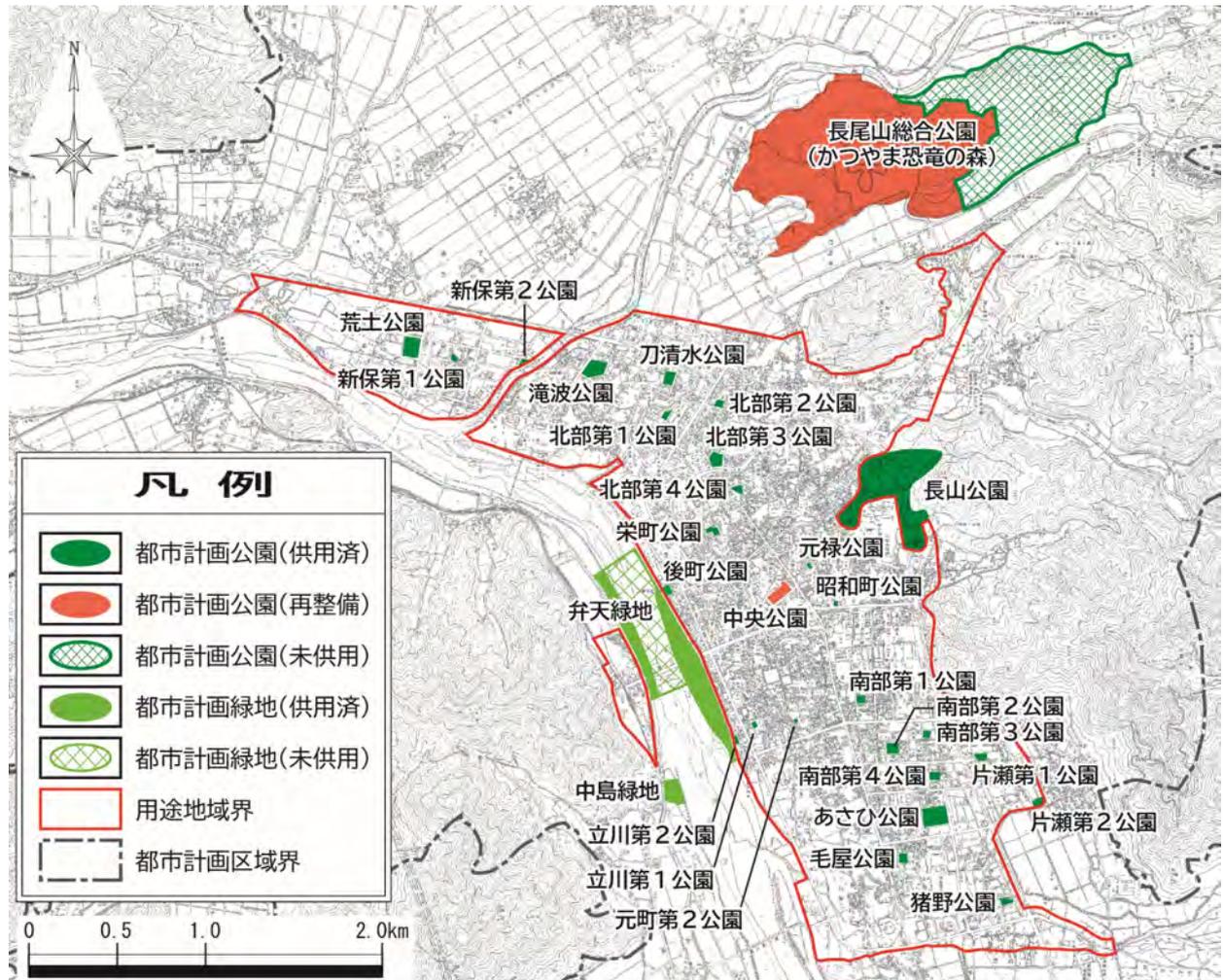


図 4-7 都市計画公園の配置方針図

## 4-5 上下水道・河川整備の方針

### (1) 上下水道・河川整備の現況と課題

#### ①上水道整備

本市の水道事業は、昭和33年（1958年）に創設され、給水区域の拡張、給水人口や給水量の増減、点在する簡易水道の統合のための事業変更を行いながら既に60年を経過しています。市内の水道施設は10の配水区域からなり、市内に布設されている管路延長は、約333.6kmに及びます。

水道事業を取り巻く環境は、給水人口の減少や水需要の停滞による収入の減少、水道施設の拡張整備から維持管理への移行等、大きく変化しようとしています。今後は、昭和の水道建設期に整備した水道施設の老朽化対策、耐震化に多額の費用が見込まれます。また、平成29年（2017年）及び30年（2018年）の給水制限を踏まえ、将来にわたり安定した水源の確保に努めるために水源井戸の更新整備を実施しています。

#### ②下水道整備

公共下水道の全体整備計画区域面積は、市街地とその周辺地域を合わせて945haとなっており、令和2年（2020年）度末現在で整備率88.6%、普及率は85.9%となっています。下水管渠の布設整備は令和3年（2021年）度に完了する予定ですが、今後、昭和57年（1982年）から平成7年（1995年）にかけて集中して整備した管渠の更新時期を迎えることから、多額の費用が見込まれます。

農業集落排水区域は、平成5年（1993年）度に神谷地区の整備事業に着手し、平成9年（1997年）3月に供用を開始しました。その後、北野津又地区、勝山西部地区、勝山東部地区、伊知地・坂東島地区の整備を進め、整備事業は完了しています。平成30年（2018年）度、令和元年（2019年）度に各施設の機能診断を行い、令和2年（2020年）度に最適整備構想を策定しましたが、今後、機械設備の老朽化に伴う修繕や更新に多額の費用が見込まれます。

#### ③河川改修

勝山市は、九頭竜川に沿って市街地が形成されており、中小河川が市街地を縦横断して九頭竜川に注いでいます。近年多発する集中豪雨等により浸水被害の増大が課題となっており、現在、市街地を流れる大蓮寺川の河川改修、その流域である三谷川の雨水排水対策事業を実施しています。

### (2) 上下水道・河川整備に関する基本的な方針

#### ①安心できる水を安定して供給しつづける水道を目指して／上水道

上水道は、市民生活にかかせない重要なライフラインであることから、安全で安心な水道水を安定して供給し続けるための効率的かつ計画的な水道施設の整備と更新を進めます。

また、水道施設の突発的な事故や故障は、大規模な断水につながる恐れがあり、社会生活、経済活動に大きな影響を及ぼすことが少なくないため、災害に強い水道の構築を図ります。

## ②快適な生活環境の形成／下水道

公共下水道や農業集落排水は、快適な生活環境等を形成するとともに、河川や用水路などの公共用水域の水質汚濁を防止する上で重要な社会基盤であることから、水洗化率の向上を図るとともに、下水道施設（処理場・管路）の適切な維持管理と効率的な改築更新を図ります。

また、持続可能な汚水処理システムの最適化に向けて、公共下水道と農業集落排水の接続の検討及び、し尿処理との共同化を進めます。

## ③安全な川づくり／河川

河川は、自然環境を豊かにし、まちに潤いや安らぎを与える重要な空間である一方、ひとたび氾濫が起きれば生活や経済活動等に大きな影響を与えます。特に、勝山市はまち全体が九頭竜川の上流域に位置することから、国や県とも連携しながら、河川改修や雨水排水対策を促進します。

改修に際しては、景観に配慮した整備や親水性の確保など、水と緑のネットワークとしての活用を図ります。

### （3）上下水道・河川整備の方針

#### ①上水道施設の適切な維持管理・更新

各家庭へ給水している管路の幹線（配水本管）の更新に合わせ、国の補助金を活用し医療施設などの重要基幹施設への管路の耐震化を図ります。

また、多くの水道施設は、経年劣化等により更新の時期を迎えていることから、緊急性や重要性を考慮し、計画的な更新を進めます。

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要給水施設配水管耐震化事業（市内医療機関に向かう配水本管）</li> <li>・各水源井戸の計画的な洗浄・更新</li> <li>・老朽化した水道施設の計画的な更新</li> <li>・水道施設の機能確保</li> <li>・水質管理の強化</li> <li>・水道管及び配水池等の維持管理</li> </ul>
------------	---

#### ②下水道施設の適切な維持管理・更新と汚水処理事業の効率化

下水道施設の老朽化に対応するため、ストックマネジメント計画や最適整備構想を基に、適切な維持管理の継続と計画的・効率的な更新を図ります。

また、公共下水道と農業集落排水の接続の検討や、勝山浄化センター敷地内でのし尿受入施設の整備により、汚水処理事業の一層の効率化を目指します。

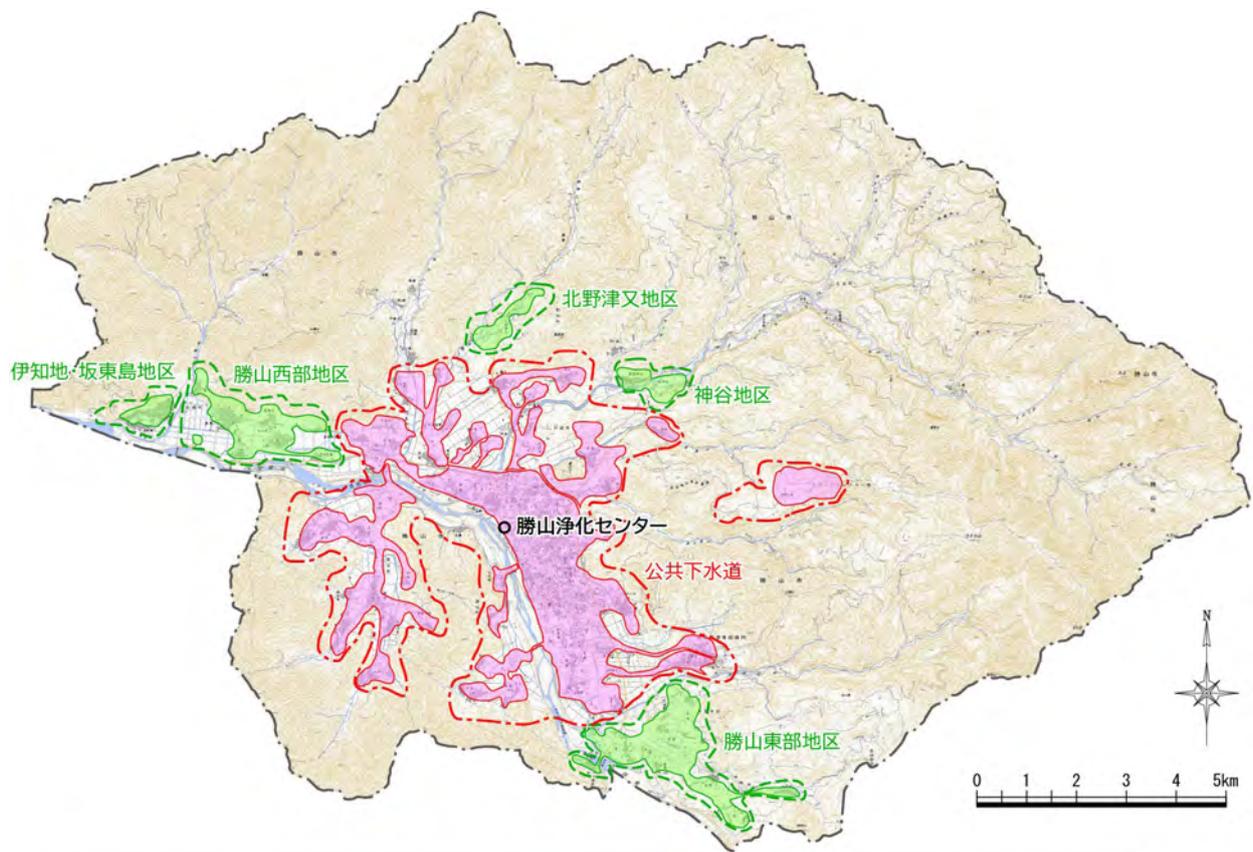
取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水洗化率の向上</li> <li>・管路のストックマネジメント計画の策定</li> <li>・処理施設及び管路のストックマネジメント計画、農業集落排水の最適整備構想に基づく計画的な維持管理・更新</li> <li>・し尿受入施設の建設や衛生センターの廃止・解体</li> <li>・農業集落排水の公共下水道への接続の検討</li> </ul>
------------	---

③河川の整備

市街地における浸水対策を進めるため、大蓮寺川の改修及び三谷川の雨水排水対策事業を促進します。

その他の河川においては、河川流の阻害及び水位の上昇による被害を防止するため、伐木及び浚渫を促進します。

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大蓮寺川河川改修事業（元禄線放水路、立石線放水路）の早期完成を要望</li> <li>・三谷川の浸水対策に向けた雨水排水対策事業の継続を要望</li> <li>・河川の伐木を要望（皿川、三室川、暮見川）</li> <li>・河川の浚渫を要望（皿川、暮見川、浄土寺川、淀川）</li> <li>・国、県、関係市町との連携による流域治水の推進 等</li> </ul>
------------	--



凡 例	
<p>■ 勝山市公共下水道事業区域</p> <p>■ 供用開始区域</p>	<p>■ 農業集落排水事業区域</p> <p>■ 供用開始区域</p>

図 4-8 下水道整備方針図（令和3年3月）

## 4-6 景観形成の方針

### (1) 景観形成の現状と課題

わがまちに対する市民の誇りや愛着を高めるとともに、来訪者に対して勝山市の美しい景観の印象を高める重要な要素として、次のような特長を有する勝山市固有の景観を保全・継承していくことが重要です。

#### ① 霊峰白山を背景に、稜線が重なる雄大な山並みの眺望景観

勝山盆地に形成された市街地の周りに田園地域が広がり、北部の加越国境と南部の越前中央山地の山々が取り囲む地勢により、市内のいたる所からパノラマ状の眺望景観が展開されており、四季折々の風景を眺めることができます。

#### ② 四季の移ろいを、見て触れて感じることができる自然景観

白山国立公園や奥越高原県立自然公園に指定される加越国境は、季節感豊かな自然景観を形成しています。勝山盆地の中央を流れる九頭竜川が雄大な自然景観を形成し、七里壁と呼ばれる河岸段丘は、坂のあるまちなみと合わせて情緒ある雰囲気を出しています。これらの山地をつくった火山活動や河川によって形成された地形、恐竜化石を現在の勝山へともたらした大地の活動の痕跡などの地形・地質遺産を有し、市全域が日本ジオパーク委員会より「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」に認定されています。

#### ③ 悠久の時の流れが、今に語りかける歴史と伝統

勝山市の歴史は古く、旧石器時代から河岸段丘の上に人々が暮らしていたことが明らかになっています。奈良時代には泰澄大師によって白山中宮平泉寺が開かれ、白山信仰の一大拠点として栄えました。明治期には織物業が盛んとなり、はたや記念館ゆめおーれ勝山は、国の近代化産業遺産に認定されています。そのほか、市内には数多くの史跡・名勝、旧跡、歴史的建造物等が残されており、また、勝山左義長や年の市などの伝統的な行事もあります。

#### ④ 暮らしの中に伝統文化が息づく優美な集落景観

勝山城下の中心であった元町・本町一帯などには、伝統的なまちなみ景観が残っていると同時に、社寺も多く存在し、城下町の面影を感じることができます。勝山街道をはじめ多くの街道が人々の往来を支え、谷集落に見られる石畳道は往時の面影を残しています。また、田園地域に点在する集落は、農地の風景にとけこんでおり、北谷町に見られる山間集落は、斜面を利用した特徴的な景観となっています。

#### ⑤ 勝山固有の風景に美しく調和した施設景観

勝山市における主要な施設として、道路、河川、公園、博物館や図書館等の施設があげられます。道路や河川は、街路樹や水辺空間と一体となって人々の生活に身近な美しい景観を形成しているとともに、眺望景観への絶好の視点場となっています。公園は、オープンスペースとして市民が集う場や市街地の景観に変化を与える要素に、また、福井県立恐竜博物館やはたや記念館ゆめおーれ勝山などは、勝山市を印象付ける施設の一つとなっています。

## (2) 景観形成に関する基本的な方針

勝山市では、市民、団体、行政が一体となって、美しい自然景観や眺望景観、固有の歴史景観などを市民共有の財産として未来へ残し、さらにこれらと調和のとれた景観の形成を進めていくため、景観法に基づく勝山市景観計画を策定しており、この計画に基づいて良好な景観の保全・創出・育成を図っていきます。

### ① 霊峰白山を後背に、稜線が重なる雄大な山並みの眺望景観を守る

- ・加越国境や越前中央山地などの美しい緑や山並みを守ります。
- ・市民の誇りである癒しの眺望景観を守ります。
- ・美しい眺めが楽しめる場所を大切にします。



保田～小舟渡間から白山への眺望

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定用途制限地域の指定等の都市計画制度の運用</li> <li>・良好な視点場の保全及び維持管理</li> <li>・ビューポイント（視点場）の整備</li> <li>・景観形成等に関わる福井県屋外広告物条例の運用 等</li> </ul>
------------	--

### ② 四季の移ろいを、見て触れて感じることができる自然とともに生きる

- ・九頭竜川の豊かな流れと田園風景が調和した自然景観を守ります。
- ・九頭竜川や市内の河川の美しい流れ、豊かな緑、多様な生態系を守ります。



勝山橋から見た九頭竜川

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーンアップ九頭竜川等の清掃活動やヨシ刈りなど地域資源の保全活動</li> <li>・農地集積・集約化による農地の効率的利用を促進</li> <li>・条件不利地での景観作物等の作付けなど農地の利活用 等</li> </ul>
------------	--

### ③ 悠久の時の流れが、今に語りかける歴史と伝統に学ぶ

- ・中心市街地では、町家や神社仏閣、七里壁などの特徴的な景観資源を生かし、勝山らしさが感じられる、魅力ある市街地景観を守り育てます。
- ・平泉寺区の周辺では、地区の歴史性と周辺の自然環境を背景とした情緒豊かな平泉寺固有の集落景観を守り育てます。



白山平泉寺旧境内

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平泉寺一斉清掃等の清掃活動</li> <li>・中心市街地での年の市や勝山左義長等の開催</li> <li>・勝山市歴史的まちなみ景観創出事業等の補助制度</li> <li>・ジオツアー等で歴史を学ぶ 等</li> </ul>
------------	---

**④暮らしの中に伝統文化が息づく優美な集落景観を育てる**

- ・市街地の住宅地では、周辺の自然と調和した緑豊かで落ち着いた住宅地景観を守り育てます。
- ・集落では、鎮守の森や田園、河川等の身近な自然をはじめ、年中行事等の伝統文化を生かしながら、地区ならではの文化が薫る集落景観を守り育てます。



布市集落の田園風景と越前甲(大日山)

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「かつやまをきれいにする運動」等での花の植栽</li> <li>・各集落での伝統行事等の開催</li> <li>・地域の景観に関するルールづくり 等</li> </ul>
------------	---

**⑤勝山固有の風景に美しく調和した施設景観を創造する**

- ・道路、公園、河川等の施設においては、市民に親しまれ、来訪者をひきつける勝山らしい施設景観を育てます。
- ・主要な歩行者空間やシンボル性の高い施設において、勝山らしい夜間景観を育てます。



ゆめおーれ勝山と県道勝山丸岡線

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路・公園・河川等の公共施設の整備と維持管理</li> <li>・主要な歩行空間やシンボル性の高い施設での夜間景観の演出 等</li> </ul>
------------	---

**⑥市民の誇りである勝山の景観を未来へ継承する思いを共有する**

- ・景観づくりへの参加意識を啓発します。
- ・市民、事業者、行政が協力して、景観づくりに取り組む機会を設けます。
- ・景観づくりに関わる活動に対する支援等を行います。



市民による景観形成活動の様子

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観に関する情報の提供</li> <li>・景観づくりに関する市民活動への支援</li> <li>・景観に関する提案 等</li> </ul>
------------	---

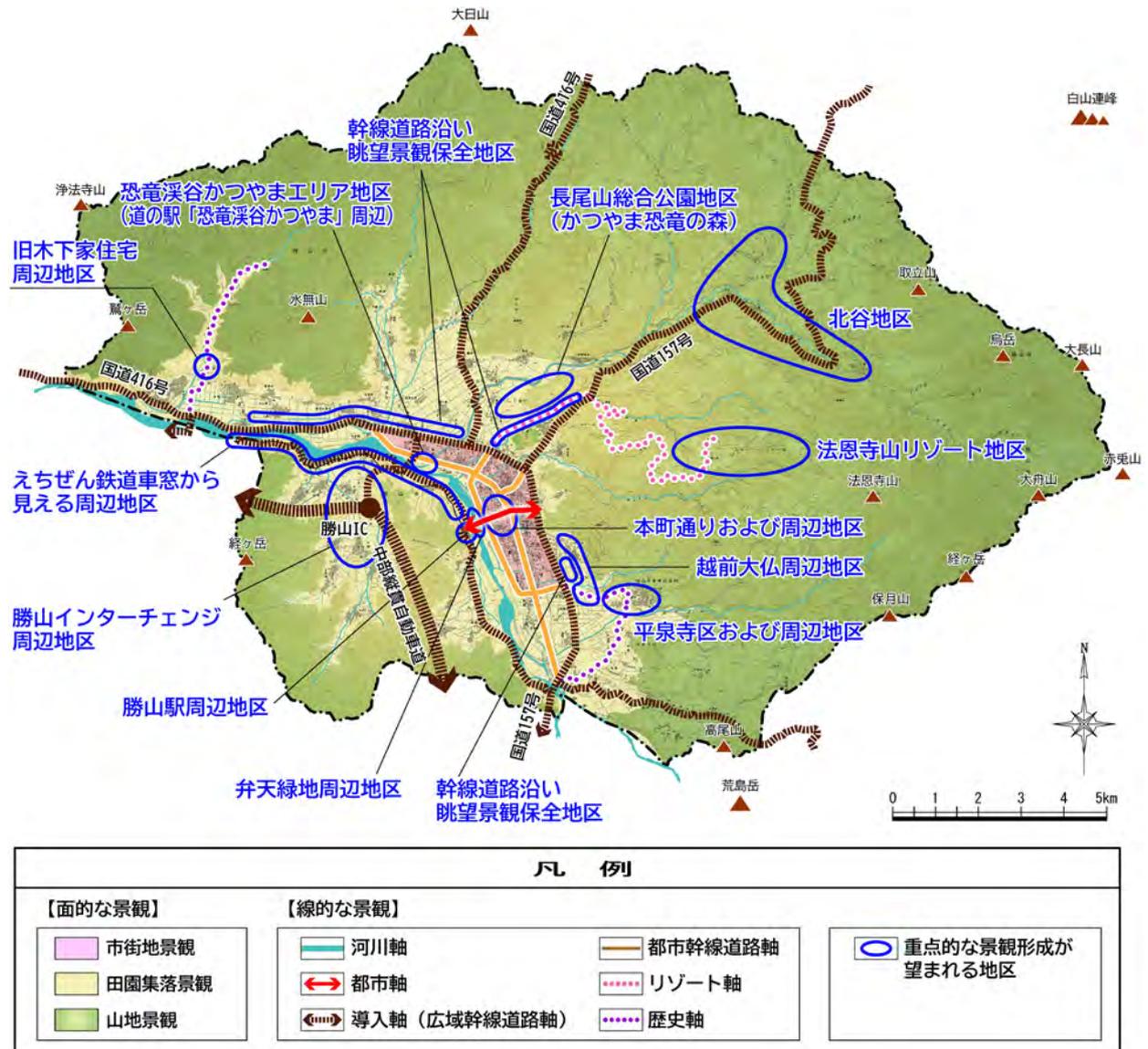


図 4-9 勝山市景観計画区域（景観特性図）と重点的な景観形成が望まれる地区（勝山の風景として印象付けられる重要な対象場及び視点場）

## 4-7 防災まちづくりの方針

### (1) 防災まちづくりの現況と課題

#### ①市民の防災意識の向上

勝山市において予想される災害には、豪雪、土砂災害、洪水や浸水、木造密集市街地における家屋倒壊や火災の延焼などがあります。また、福井県に被害をもたらす可能性がある地震として「南海トラフ巨大地震」への警戒が高まっています。

災害はいつ起こるか分からないということを念頭に、適切な予防対策や減災対策を推進するとともに、自助・共助・公助の考えに基づき、市民一人ひとりが防災意識を高めることが必要です。

#### ②山地・河川災害の防止

山と川が多い勝山市では、集中豪雨等による土砂災害の危険箇所が見られるほか、大蓮寺川の流域などでは度々浸水被害が発生しており、災害を未然に防止するための対策が必要です。

特に水害予防については、まち全体が九頭竜川の上流に位置することを踏まえながら、国や県、関係市町と連携した取り組みが必要です。

#### ③密集市街地の防災対策

元町・本町一帯の旧市街地には、伝統的民家や木造建築物が密集している地区が見られ、歴史的なまちなみ保存とのバランスを図りながら、建物の安全性向上や避難経路の確保等の防災対策が必要です。

#### ④災害に強いまちづくりと災害時の減災対策

ハード整備による災害の未然防止には限界があることから、災害に備えたまちを構造的に作り上げていくとともに、円滑な避難体制の確立など、災害時の被害を最小限に留める取り組みが必要です。

#### ⑤豪雪対策

勝山市では、民間への委託も含め 237.9km（令和3年（2021年）度実績）で機械除雪を行っているほか、狭小路線や水源が確保できる路線など 19.2km で消雪施設を整備していますが、短時間に降り積もる大雪に対しては除雪作業が追い付かず、市民の日常生活や事業活動への影響も生じています。

また、高齢化の進展に伴い、屋根雪下し等を含めた除雪作業員の不足、老朽危険空き家の倒壊などの課題も生じており、雪と共生する勝山市として豪雪対策の強化が必要です。

## (2) 防災まちづくりに関する基本的な方針

### ① 災害に強いまちづくり

まちの安全・安心は、市民の暮らしやすさが高まり定住につながるとともに、安定的な経済活動を営む上でも重要であり、被害を未然に防ぐ「防災」と被害をできるだけ抑える「減災」の視点に立ち、ITなどの新しい技術も活用しながら、ハード・ソフトの両面で災害に強いまちづくりを推進していきます。



勝山市防災ハザードマップ表紙

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝山市立地適正化計画における防災指針の策定</li> <li>・地域防災計画の活用、国土強靱化地域計画の策定</li> <li>・国、県、関係市町との連携による流域治水の推進【再掲】</li> <li>・河川改修、雨水排水対策事業、土砂災害対策の促進</li> <li>・災害の危険性が著しく高いエリアでの開発の規制</li> <li>・AIを活用した災害予測、ICTを活用した災害状況の把握と迅速な情報発信</li> <li>・ハザードマップの活用</li> <li>・ライフラインの計画的な維持管理・更新</li> <li>・公園や避難所施設の防災機能の強化・充実 等</li> </ul>
------------	---



- ①【氾濫をできるだけ防ぐための対策】  
氾濫を防ぐ堤防等の治水施設や流域の貯留施設等整備
- ②【被害対象を減少させるための対策】  
氾濫した場合を想定して、被害を回避するためのまちづくりや住まい方の工夫等
- ③【被害の軽減・早期復旧・復興のための対策】  
氾濫の発生に際し、確実な避難や経済被害軽減、早期の復旧・復興のための対策

図 4-10 流域治水のイメージ（出典：気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会/国土交通省）

②雪に強いまちづくり

特別豪雪地帯である勝山市にとって雪対策は必須であり、ハード・ソフトの両面での対策の強化や地域ぐるみによる除雪活動の推進など、市民、事業者、行政の協働とともに、関係機関とも連携しながら取り組んでいきます。



R3.1月の雪かき作業の様子

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間との連携による機械除雪の迅速化、除雪業者の担い手育成</li> <li>・ ICT 技術を利用した除雪作業のスマート化</li> <li>・ 消雪施設の適切な維持管理・更新</li> <li>・ 流雪溝の適正管理</li> <li>・ 狭小道路や高齢者住宅への除雪作業体制の確保</li> <li>・ 市街地内の公園や空き地等を利用した雪押し場の確保</li> <li>・ 克雪住宅の普及促進</li> <li>・ 老朽危険空き家の対策（除却等）</li> <li>・ 地域ぐるみ雪下ろし支援事業による高齢世帯等への除雪</li> <li>・ 地域コミュニティによる除雪や屋根雪下し 等</li> </ul>
------------	---

③建築物の耐震化と防火の推進

地震から市民の生命・財産を守るため、昭和 56 年 5 月以前の旧耐震基準で建てられた木造住宅の耐震改修を促進するとともに、木造建築物が密集する旧市街地を中心に、建築物の不燃化の促進、避難路や緊急車両の進入路の安全性の確保などを図ります。

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勝山市建築物耐震改修促進計画に基づく住宅・特定建築物の耐震改修の促進</li> <li>・ 各種助成制度の活用（勝山市木造住宅耐震化促進事業、勝山市木造住宅耐震改修促進事業、勝山市ブロック塀等解体事業補助金等）</li> <li>・ 木造密集市街地における建築物の防火改修の促進</li> <li>・ 狭小道路の解消</li> <li>・ 緊急輸送路や避難ルートにおける沿道建築物の優先的な安全性確保 等</li> </ul>
------------	--

④地域レベルの防災活動の推進

災害に強いまちづくりを進めるためには、自分たちの地域と自らの命は自分たちで守るという意識が大切であり、市民一人ひとりの防災意識の向上を図りながら、自助・共助・公助の考えに基づき、地域ぐるみで災害に強いまちづくりに取り組みます。



総合防災訓練の様子

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各家庭などにおける災害への備えの充実</li> <li>・ 地域における避難訓練や自主防災組織の活動等への支援</li> <li>・ 地域コミュニティの拠点となる小学校やまちづくり会館等の防災機能の強化</li> <li>・ 防災に関する講演会等による防災意識の向上 等</li> </ul>
------------	---

## 4-8 環境保全の方針

### (1) 環境保全の現況と課題

#### ①自然環境

勝山市は、白山山系や九頭流川をはじめとする豊かな自然環境に包まれており、二酸化炭素の吸収や大気の浄化等に資するほか、レクリエーション活動の場、貴重な動植物の生息・生育の場にもなっています。

地球温暖化に起因する気候変動による植生や生態系の変化、また、維持管理の担い手不足等により、美しい自然環境が損なわれるおそれがあり、総合的な環境施策が必要になっています。

#### ②生活環境

勝山市では、市民や事業者等との協働により、身近な地域や九頭竜川の美化・清掃活動、資源ごみの回収・再資源化等を推進し、生活環境の維持・改善に努めてきました。

市民の暮らしやすさや生活の質を高めるためにも、生活環境の維持・改善に継続して取り組んでいくことが必要です。

### (2) 環境保全に関する基本的な方針

勝山市環境基本計画に基づいて、良好な環境保全の取り組みを推進していきます。

#### ①循環型社会の構築

ごみの排出量を減らすための食品ロスの削減及び都市鉱山の活用等による3Rの推進や、不法投棄の防止、河川の清掃活動など廃棄物の適正処理の取り組みにおいて、市民、事業者、行政の連携を推進し、循環型社会の構築を目指します。



携帯電話、バッテリー回収ボックス

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3Rの推進（生ごみや紙ごみ等の減量化、再使用の促進、再生利用の促進）</li> <li>・廃棄物の適正処理の推進（不適正処理の防止、環境美化活動の推進、災害廃棄物の処理） 等</li> </ul>
------------	--

#### ②脱炭素社会の構築

従来の低炭素社会の構築に向けた取り組みをさらに発展し、2050年までに市内の二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すゼロカーボンシティの実現に向けて、市民、事業者、行政が一体となって推進します。



企業の森づくり活動の様子

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー対策</li> <li>・再生可能エネルギー活用策の検討・研究</li> <li>・二酸化炭素吸収源としての機能を持つ森林の保全 等</li> </ul>
------------	---

### ③自然共生社会の構築

「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」をはじめとする豊かな自然環境を生かしたまちづくりや、希少動物の保全及び外来生物の防除による生物多様性の保全、持続可能な農林業の振興を通じて、自然共生社会の構築を目指します。



バイカモの保全活動の様子

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性の保全（希少動植物の保全、外来生物の防除）</li> <li>・ 生物多様性を育む持続可能な農林業の振興（環境保全に配慮した農業の推進、環境保全に配慮した林業の推進）</li> <li>・ 豊かな自然を生かしたまちづくりの推進（恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク等の活用、ホタルなど身近な自然の保全） 等</li> </ul>
------------	--

### ④環境保全に関心がもてる人づくり

市内小中学校における環境教育を中心とした ESD の推進や市民向けの環境学習の機会の提供を通じて、環境にやさしい持続可能な社会の実現のため、多様な環境問題に関心を持ち、自ら考え行動できる人づくりに取り組みます。



中学校による河川の清掃活動の様子

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校教育における ESD の推進</li> <li>・ 生涯学習講座等を活用した環境学習の機会の充実 等</li> </ul>
------------	--

### ⑤環境に配慮した安全で快適に暮らせるまちづくり

鉄道などの公共交通の利用促進、大気汚染や水質汚濁の防止、水害や土砂災害等の自然災害に対する適応力の強化を図り、私たちの生活に密接する環境に配慮した安全で快適に暮らせるまちづくりに取り組みます。



えちぜん鉄道の利用促進イベント

取組方策 の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共交通機関の利用促進</li> <li>・ 安心して暮らせるまちづくりの推進（水質汚濁の防止、騒音・震動・悪臭の防止、水資源の保全、自然災害への適応） 等</li> </ul>
------------	--